

## 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

### 第1 法人の概要

#### 1 代表者

理事長 高橋康夫

#### 2 所在地

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

#### 3 電話番号

075-415-0521

#### 4 ホームページアドレス

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

#### 5 設立年月日

昭和 51 年 10 月 26 日

#### 6 基本財産

932,366 千円（うち本市出えん額 932,366 千円、出えん率 100.0%）

#### 7 事業目的

京都市内の埋蔵文化財をはじめ、史跡、名勝等の文化財の調査、研究、保護及びその調査成果の公開、活用を行うとともに、文化財及び関連する施設等の管理を行うことにより、学術・文化の振興や地域社会の健全な発展等に寄与すること。

#### 8 業務内容

- (1) 埋蔵文化財及び史跡、名勝等の文化財の調査、研究及び保護に関する事業
- (2) 埋蔵文化財及び史跡、名勝等の文化財の活用及び保護意識の普及啓発に関する事業
- (3) 文化財及び文化財に関わる京都市から指定管理者の指定等を受けた施設の管理運営
- (4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

#### 9 所管部局

文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（TEL075-222-3130）

#### 10 役員名等

##### (1) 理事長

高橋康夫

##### (2) 専務理事

荒木裕一（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課埋蔵文化財研究所改革担当参事）

##### (3) 理事

五十川伸矢、井上満郎、岩崎奈緒子、小椋純一、金谷宗子、鋤柄俊夫、伊達仁美、玉置泰紀、西山良平、松田規久子

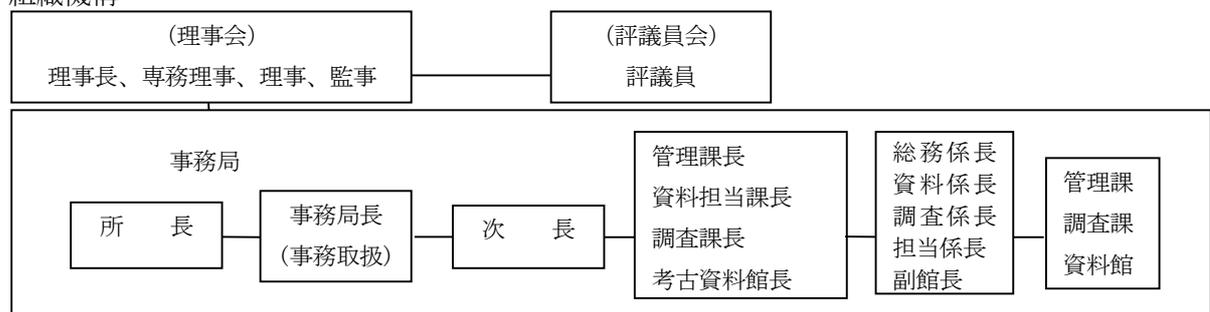
##### (4) 監事

柴田陽一郎、山口壮八（文化市民局文化芸術都市推進室文化財担当部長）

#### 11 職員数

常勤職員数 30 名、非常勤職員数 2 名

#### 12 組織機構



## 第2 目標及び実績

### 1 業務面

#### (1) 目標及び実績

目標 「埋蔵文化財の普及啓発の推進」	
令和4年度の目標	遺物の保管・管理、普及啓発事業の他、研究所独自の技術、ノウハウである写真撮影、測量、保存処理技術を最大限に活用した発掘調査以外の受託事業の拡充に取り組む。また、考古資料館次期指定管理者の選定に向けた取組を進める。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	京都市考古資料館等において、新たに市指定文化財に指定された遺物や大河ドラマに関連する京都の遺跡、その他市民等の関心の深い考古資料をテーマとした特別展示、大学の特色等を生かした合同企画展、発掘調査等の成果をいち早く展示する速報展等の多彩な展示を行う他、発掘調査成果や文化財に関連する市民向けの講座などを開催し、これらの取組を通じて市民等へ広く京都市埋蔵文化財研究所の取組や発掘調査成果の発信、埋蔵文化財の普及啓発を推進する。

指標	展示、講演会等の実施回数						(単位：回)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			14		22	25		30

#### (2) 事業実績（令和3年度）

- ア 理事会及び評議員会の開催
- イ 発掘調査、考古学的調査、調査支援及び測量・保存処理・写真撮影等の実施
- ウ 京都市受託事業
  - (ア) 出土遺物の保管管理及び出土遺物の整理事業
  - (イ) 埋蔵文化財出土遺物指定準備事業
  - (ウ) 埋蔵文化財普及啓発事業
  - (エ) 史跡名勝等管理
  - (オ) 京都文化遺産保存活用事業
  - (カ) 出土文化財収蔵・公開促進事業
  - (キ) 京都市考古資料館指定管理
- エ 埋蔵文化財調査報告書の刊行
- オ 講演会・イベントの開催
  - (ア) 京の歴史文化探検・体験事業（中京区、山科区、南区で実施）
  - (イ) 文化財講演会「羅城をつくる-平城京と平安京-」
- カ 記者発表、現地説明会の開催
- キ 「リーフレット京都」(No.387～No.398)の発行
- ク 全国埋蔵文化財法人連絡協議会への参加
- ケ その他研究会等への派遣
- コ 講師等の派遣
- サ 出前授業等
- シ インターネット（ホームページ・Facebook）による情報発信・開示

ス 職員研修の推進等

セ 京都市考古資料館事業

(ア) 特別展示の実施

a 「京都文化遺産を千年先へ！-京都市文化財保護課の挑戦-」

(令和3年2月13日～6月20日)

b 「平安京をつくる・たもつ」

(令和3年7月10日～11月21日)

c 「鎌倉時代の京都」

(令和4年2月11日～6月19日)

(イ) 合同企画展の実施

京都市立芸術大学との合同企画展

「桃山デザイン」

(令和3年12月14日～令和4年1月16日)

(ウ) 速報展・企画陳列の実施

(エ) 常設展示によるスポット展示

(オ) 外部施設での展示の実施

a 市役所分庁舎での考古資料展示

b 上京区総合庁舎での考古資料展示

c 京都アスニーでの考古資料展示

d 山科区役所「アートロードなぎつじ」における考古資料展示

(カ) 文化財講座の開催

(キ) 情報コーナーにおける普及啓発

(ク) 考古資料の貸出し

(ケ) 博物館学芸員課程実習生の受入れ

(コ) 教育機関の学外授業等の受入れ

(サ) 関係機関等の見学受入れ

(シ) 取材対応

(ス) 博物館団体等他の関係機関との連携事業

(セ) ボランティア研修事業

(ソ) 考古資料館施設の修理及び整備

## 2 財務面

### (1) 目標及び実績

目標	「発掘調査事業収入の確保」
令和4年度の目標	研究所の収益の7割を占める発掘調査について、公共事業に係る発掘調査を確実に受託するとともに、民間企業等の今後の事業予定等の情報を収集し、受託に努めることにより事業収益の確保を図り、京都市からの長期借入金の確実な返済及び収支相償を目指す。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	総収益の7割を占める発掘調査事業について、公共事業の確実な受託はもとより、民間事業についても、これまでの発掘実績に基づく価格競争力のある見積提案及び発掘調査等のメディアへの掲載を通して、研究所の知名度や調査実績を広くアピールすることで調査受託に繋げ、事業収益の確保を図る。併せて管理経費の一層の削減に努め、京都市からの長期借入金の確実な返済及び当期経常益の計上を目指す。

指標	発掘調査事業等収益						(単位：千円)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
			416,865		427,527	350,000		410,000

主要財務数値									(単位：千円)
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	556,671	593,523	533,445	620,287	497,162		564,508		
経常費用	556,671	572,927	533,445	593,377	497,162		564,508		
当期経常増減額	0	20,596	0	26,910	0		0		
当期正味財産増減額	0	56,733	0	26,910	0		0		
資産合計	-	1,426,256	-	1,410,446	-		-		
負債合計	-	883,960	-	841,240	-		-		
正味財産	-	542,296	-	569,206	-		-		
うち累積損益額	-	△390,070	-	△363,160	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R2 決算	R3 決算	R4 決算(※)	R5 予算
委託料	京都市考古資料館管理運営委託 〔指定管理〕	26,379	26,379		26,379
	埋蔵文化財の調査委託	269,750	293,844		36,000
	出土遺物文化財指定準備	27,540	26,540		8,381
	遺物保管委託	70,877	70,000		70,000
	出土遺物整理	10,200	10,200		11,324
	埋蔵文化財普及啓発委託	850	850		850
	史跡名勝等の管理委託	43,895	44,004		41,380
	文化遺産保存活用事業	2,000	2,000		-
	出土文化財収蔵・公開促進事業	-	18,000		-
	史跡公有化及び仮整備事業他	-	6,065		4,000
	史跡御土居危険木対策事業	5,000	-		-
	京北文化遺産センター運営費	-	-		5,100
貸付金	長期貸付金(累計残高)	611,000	598,000		572,000

### 3 組織面

#### (1) 目標及び実績

目標 「調査員の資質能力の向上」	
令和4年度の目標	経費の多くを占める人件費の削減に向けて、研究所の技術、ノウハウの継承を図りつつ、今後の発掘調査事業量が増加しないことを前提とした適正な人員体制とすべく、職員数（正規職員+嘱託職員）の見直しを図り、経営の安定化に向けた組織体制のスリム化に取り組む。
令和4年度の取組結果（※）	
令和5年度の目標	調査員の世代交代が進む中で、研究所がこれまで培ってきた高い調査技術の若手職員への継承及び育成を図り、市内における埋蔵文化財発掘調査業務の中心的役割を担う。

指標	埋蔵文化財専門職員（Ⅱ種）の割合						（単位：％）	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標	実績（※）
			42		42	45		50

### 第3 令和4年度の経営評価（令和3年度の経営状況に対する評価）

#### 1 所管局による評価

財務面	<p>当期経常増減額は、27百万円の黒字となった。発掘調査事業収益及び受託事業収益とも前年度を上回り、2年連続の黒字となったことは評価できる。</p> <p>また、平成26年度以降は、平成22年度から実施してきた本市からの長期貸付、短期貸付とも実行せずに運営しており、経営努力には一定の成果が見える。</p> <p>令和3年度は、発掘調査事業収益全体としては、公共事業が堅調なこともあり、前年度を上回る実績を確保できたが、民間事業については収入額が前年度を下回った。発掘調査事業量は景気等に左右され、公共事業も一部省庁の大規模事業を除き、中長期的に見れば減少の見込みであることから、脆弱な出土文化財に対する保存処理技術などの当財団の特徴を活かした受託収入の拡大に努めるとともに、民間事業を積極的に獲得し、運営の更なる安定化に努めてもらいたい。</p> <p>また、引き続き、一般管理運営経費の抑制の継続や運営体制の効率化などの取組を進め、経営健全計画の着実な推進に努めてもらいたい。</p>
-----	---

事業面	<p>本市において、発掘調査を行うためには、地域の歴史や各時代の土層、遺物に関する専門的な知識と経験に基づく高水準の調査技術が必要である。</p> <p>当財団は、設立以来、それらを蓄積、維持、継承することで、公共事業をはじめとする本市内における多くの発掘調査を受託し、適切に実施している。</p> <p>事業の特殊性から目標とする事業量をこなしていくためには、当財団の最大の収益源である発掘調査事業収益を安定的に確保するとともに、適切な調査員数を維持していく必要がある。しかしながら、近年、熟練で高度な技能を有する調査員の多くが定年退職し、急激に調査員の構成が変化したことで、技術の継承が十分にできていないことが重要な課題となっている。</p> <p>職員の退職に合わせ新規職員を3名採用したが、今後も、人件費の削減に努めつつも、安定的かつ高水準の調査技術を維持できるよう、計画的な世代交代を円滑に進めていくとともに、増減する調査業に柔軟に対応できるよう、組織・人員体制のあり方について検討していく必要がある。</p>
-----	--

## 2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>京都市内の埋蔵文化財の発掘調査等に加え、文化財の活用・普及啓発や、考古資料館の運営など、学術・文化振興等に寄与している。新規職員を採用しつつ、退職等による減員により全体の職員数を削減する等、組織体制の適正化に取り組み、経営の安定を図っている点も評価できる。</p> <p>京都市の人的・財政的関与については、令和3年度末をもって派遣職員の役員就任を解消している。市の財政状況を踏まえ、借入金についても、着実に返済を進めていただきたい。</p> <p>また、埋蔵文化財の発掘調査等については、民間の調査団体もあることから、当団体が外郭団体として実施する意義を高め、市民理解を得る必要がある。豊富な調査成果や、地域に適した発掘調査技術に裏付けられた、経験豊富な専門職員の確保・育成など、団体の取組を分かりやすく発信することにも一層努めていただきたい。</p>
--